

自己点検・評価報告書

令和3年3月31日現在

岡山情報 IT クリエイター専門学校

(令和3年6月30日作成)

責任者 田中 雅子

記載者 山田 真弓

目 次

基準 1 教育理念・目的・育成人材像	1	5-18 学生相談	23
1-1 理念・目的・育成人材像	2	5-19 学生生活	24
基準 2 学校運営	3	5-20 保護者との連携	25
2-2 運営方針	4	5-21 卒業生・社会人	26
2-3 事業計画	5	基準 6 教育環境	27
2-4 運営組織	6	6-22 施設・設備等	28
2-5 人事・給与制度	7	6-23 学外実習、インターンシップ等	29
2-6 意思決定システム	8	6-24 防災・安全管理	30
2-7 情報システム	9	基準 7 学生の募集と受入れ	31
基準 3 教育活動	10	7-25 学生募集活動	32
3-8 目標の設定	11	7-26 入学選考	33
3-9 教育方法・評価等	12	7-27 学納金	34
3-10 成績評価・単位認定等	13	基準 8 財務	35
3-11 資格・免許取得の指導体制	14	8-28 財務基盤	36
3-12 教員・教員組織	15	8-29 予算・収支計画	37
基準 4 学修成果	16	8-30 監査	38
4-13 就職率	17	8-31 財務情報の公開	39
4-14 資格・免許の取得率	18	基準 9 法令等の遵守	40
4-15 卒業生の社会的評価	19	9-32 関係法令、設置基準等の遵守	41
基準 5 学生支援	20	9-33 個人情報保護	42
5-16 就職等進路	21	9-34 学校評価	43
5-17 中途退学への対応	22	9-35 教育情報の公開	44

基準 10	社会貢献・地域貢献	45
10-36	社会貢献・地域貢献	46
10-37	ボランティア活動.....	47

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

大項目総括

当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。

また、大原学園の建学の精神を「感奮興起」と定め、この意味するところの「感動は感謝を育み、奮闘は成功の一步となる。興味は才能を開花させ、起動で人は自立する。」が具体的な教育理念となっている。教員に対しては「一人ひとりに光を」を教育指針に掲げ、学生ひとりひとりの目標と個性を活かした将来を描けるよう指導にあたっている。

この教育理念を実現するために、主に高校卒業生を入学対象としている専門課程と、大学生・社会人を入学対象とした社会人講座を二本柱にしなから、資格取得教育を中心に実務に対応できる人材の育成を行っている。

これらの教育理念・目的・育成人材像は、書籍や小冊子として全教職員に配付され周知徹底されている。その理念・目的の下で、教職員が質の高い教育を実践し、目指す人材を育成している。

また、理念や目的、また育成する人材像は入学案内パンフレット、大原学園ホームページを通じて公表している。

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	定めている	学園の教育理念が具体的な言葉で明文化されており、目的や人材育成像も明らかにしている。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・書籍 ・教育 COMPASS
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	70%	学科ごとに教育目標、将来像を明確にするとともに、学園として企業等からの助言をもとに即戦力として活躍できる授業計画を作成している。	今後も業界ニーズの把握に努め、常に時代の変化に対応できる人材育成を目指し企業等と連携した実習・演習を取り入れ、教育目標の見直しを図りたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・コースガイダンス資料 ・就職ガイダンス資料 ・各種コンテスト
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	80%	有為な産業人育成のため入学から卒業までの教育期間を3段階(4期)に区分し、(1)成功体験期、(2-1)専門学習期、(2-2)実践期、(3)入社準備期の三段階(4期)に区分して教育を実践し、「資格取得」において一定の実績を残している。	入学生の学力や意欲、業界ニーズ等の情報収集・分析を行い、その時代にマッチした特色ある教育カリキュラムの研究を行いたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・コースカリキュラム ・大原学園ホームページ ・学園案内
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱えているか	60%	中長期の視点で地域・教育内容に関するニーズを意識し新規コース設置や教育の見直しを検討している。	目まぐるしく変化する教育内容へのニーズをよりスピーディーに調査・分析を行い、教育に取入れる柔軟な体制強化を進める必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書等 ・学校関係者評価報告書

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<p>教育理念・目的は書籍や小冊子として全教職員に配付され周知徹底されている。学園の特色の一つが『教育ストーリーを3段階(4期)に区分』して実施することである。「資格取得」において一定の成果を残し、有為な産業人を育成することができている。資格取得と就職実績をさらに向上しつつ、実務教育を充実させるために、社会の動向を的確に見極め、ニーズを調査・分析して事業計画を組んでいる。(開校初年度のため「就職」はない)</p>	<p>全国に多数の学校を設置している学校法人であるが、教育理念などは書籍や小冊子の形で配付し、輪読等により全教職員に浸透している。</p>

【達成度合の評価】0% (取り組めていない) ~ 100% (取り組みは十分で、成果も出ている) までの11段階評価

基準 2 学校運営

大項目総括

意思決定システムが確立されており、学園全体の運営方針は理事会・評議員会で、また各校の運営方針は校長を中心とした運営会議で定められている。また、その内容は全体朝礼およびイントラネットやグループウェアにて速やかに告知するとともに各課で周知徹底している。

学校の運営方針を反映した事業計画（目標達成プログラム）は毎年度作成されており、各部署では目標を達成すべく定期的にその内容と進捗とを確認し、必要ならば支援や計画の修正を行っている。組織および教職員の業務分掌も明確に規定されている。

人材の育成では、職能等級制度やC & D 目標管理制度などの人材育成・処遇システムがあり、能力や職位に応じた適切な研修を実施している。特に教育の基盤をなす教員においては定期的・段階的な指導力向上研修を実施している。また、そのための人事関連の規定は明文化され、全教職員に配付されている。

※C & D = Communication & Development

2-2 運営方針

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	定めている	学園全体の運営方針は理事会・評議員会で定められ、その方針の下で各学校では校長を中心とした各種運営会議を設置している。	運営方針の教育現場への浸透度合いについては、継続的に点検する必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会決議録 ・評議員会議事録 ・目標達成プログラム ・各種会議議事録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学園全体の運営方針は理事会・評議員会で、また各校の運営方針は校長を中心とした運営会議で定められている。それらに基づいて管理職会議で詳細を決定し、その内容は全体朝礼で告知するとともに各課で周知徹底している。</p> <p>教育現場への浸透度合いを確認し、より高めることが今後の課題である。</p>	特になし

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

2-3 事業計画

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	定めている	毎年度、目標達成のための事業計画（目標達成プログラム）を作成している。 また、各部署の定例会議において、事業計画との差異を継続的に確認し、適時対応している。 期中および年度末には目標達成度合の振り返りを行い、学園全体で共有している。	学校全体での目標の共有化を更に押し進める必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書（目標達成プログラム） ・会議議事録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校の運営方針を反映した事業計画（目標達成プログラム）は毎年度作成されており、各部署では目標を達成すべく定期的に進捗と差異を確認して必要な手立てを講じている。</p> <p>教職員全体での共有化を更に押し進めることで、目標達成をより確実なものにしていく必要がある。</p>	<p>事業計画は個々の教職員の職務基準の設定（業務および目標）と密接に関連しており、学校の目標達成の可能性を高めている。</p>

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

2-4 運営組織

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	90%	組織運営は適切である。理事会・評議員会は寄附行為に基づき適切に開催し、必要な議決を行い、記録に残している。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会決議録／議事録 ・評議員会決議録／議事録 ・各種会議議事録
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	90%	職務分掌と責任に関する規定があり、教職員に配付されている。また、運営組織図はイントラネットなどを通じて教職員に配付されている。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・諸規則集 (組織及び職務分掌規程) ・運営組織図

中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
理事会・評議員会で決議された内容は、事業部長・校長の下で開催される運営会議で伝達・説明され、課長などの各階層でも適切な意思決定が行われている。また、意思決定が効率的に行えるように、職務分掌と責任に関する規定と各部門・各部署の役割を明示した運営組織図がある。	特になし

【達成度合の評価】0% (取り組めていない) ~100% (取り組みは十分で、成果も出ている) までの11段階評価

2-5 人事・給与制度

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	80%	諸規則集の人事考課制度規程に考課要件や昇格要件を明記するとともに、適性や考課に基づいて昇進・昇格・採用・異動などの人事システムを通じて適正な運用を行っている。また、指導十訓研修、等級研修、新任管理者研修などの各種研修により人材育成にも力を入れている。	ハードウェアの入れ替えに伴う人事システムおよび現況に合わせた各種帳票様式の見直しを継続的に行う必要がある。 なお、現況に合わせた制度の見直しを図り、令和3年度から新たな職種別職能等級規定および人事考課制度規定を施行する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸規則集 (人事考課制度規程／職能等級規程／給与規程・退職金規程) ・ 指導十訓研修テキスト ・ 等級研修テキスト ・ 新任管理者研修テキスト

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
要員計画、採用計画、教職員研修計画を通じて、人材の着実な確保と育成が行われている。また、人事・給与に関する規定も整備されていて、人事部および人事委員会を中心に適切に運用されている。	育成に関しては職能等級制度およびC&D目標管理制度の下で能力や職務に応じた適切な研修を実施しており、さらに教員においては定期的・段階的な指導力向上研修を内外問わず受講している。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

2-6 意思決定システム

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	90%	理事会・評議員会・学校運営会議など階層ごとの意思決定システムが存在しており、それぞれの意思決定者とその職務や権限も明確にされている。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸規則集 (寄附行為／組織及び職務分掌規程) ・ 理事会決議録／議事録 ・ 評議員会決議録／議事録 ・ 各種会議議事録

中項目総括	特記事項 (特徴・特色・特殊な事情等)
理事会、評議員会、学園本部、学校と階層ごとに意思決定システムが確立されており、意思決定者による決定内容はイントラネットやグループウェアなどを用いて速やかに伝達されている。	特になし

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

2-7 情報システム

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
2-7-1 情報システム化に 取組み、業務の効率化を 図っているか	70%	学生管理・授業料管理・人事給与管理など多くのシステムを導入して、正確で迅速な対応を可能にし、業務の効率化が図られている。	各種システムの整理統合に向け、引き続き関係部署と調整を進め、独立したシステムの連動を図り、業務効率の向上および入力等事務業務への期限をより促進する必要がある。	・システム運用 マニュアル等

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校における管理システムの多くはすでに導入されており、現場の業務軽減に役立っている。 役目を終えたシステムなどが残されており、また、業務に応じ、その都度開発されてきた各種システムが存在しているため、これらの整理統合に取り組んでいる。	主な管理システムは学園全体で導入しており、システム開発は学園内部の情報システム部門が担当している。そのため、現場のニーズを充分に取り込んだシステムとなっている。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

基準 3 教育活動

大項目総括

本校の教育目標・育成人材像は、業界が求める人材像を目標として体系的に教育課程が編成されている。

入学時より各学科において、「入社後、即戦力として活躍する」ために必要な人材になることを目標とし、そのために必要なスキル習得の必要性を動機付けしている。卒業までの教育期間で行う資格試験などの目標を明確にすることで、学習意欲向上を図っている。

今後も業界ニーズの把握に努め、時代の変化に対応できる教育目標を立てていきたい。

また、スキル習得にあたっては、各種検定試験・公務員試験・資格習得・技術習得を目標として、体系的な教育課程を編成している。各科目の教育期間においても試験の実施や提出課題の確認により学生が習得状況を実感できる機会を設け、「日々成功体験が実感できる」教育課程を作成している。

今後も検定試験の変更や入学生の学力変化に対応できるように、定期的な見直しを図っていきたい。

3-8 目標の設定

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	定めている	学園の教育理念が具体的な言葉で明文化され教職員への周知がされている。入社後、即戦力として活躍する人材の育成を達成するため、時代のニーズに合わせた教育課程編成や、コース設定を行っており、大原学園ホームページでも広く公表している。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・教育 COMPASS ・大原学園ホームページ
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	明確にしている	各学科で入学段階にてガイダンスを実施し、教育目標、将来像を明確にしている。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・コースガイダンス資料 ・就職ガイダンス資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
毎年、教育課程を編成するに当たり、教育課程編成委員会の提言を教育課程に反映させることで、時代のニーズに合った教育を提供している。 また、各学科の教育目標、育成人材像は、分かりやすい言葉で、できるだけ具体的に示している。	入学段階のガイダンスで、各学科の教育目標、育成人材像を明確に伝えることで、その後の学習に対する意識向上に役立てている。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

3-9 教育方法・評価等

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	80%	入社後の戦力として活躍出来る人材を輩出するために、開校初年度としては「資格取得」を通じた基礎教育センターの教育課程を編成し行った。	今後、教育課程編成委員会を設立し、企業や産業界の意見を取り入れ、入社後の戦力として活躍出来る人材を輩出できる教育課程編成を行っていく。	・学習カリキュラム
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	60%	実務家による実習・演習を通して外部の意見を反映させる予定であったが、コロナ禍のため一部実施できていない状況である。	リモート等を活用しながら、できる限り実務家による実習・演習の機会を確保し、企業や産業界の意見を取り入れていきたい。	・入学案内パンフレット ・学習カリキュラム
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	60%	学生一人ひとりの社会的、職業的自立にむけ、学ぶこと、働くことの大切さなどガイダンスを適宜実施している。専門学校ではあるが、資格取得や就職のみが目的にならないよう注意している。	就職授業用教材に、厚生労働省ジョブカード準拠様式を導入し、キャリア教育をより具体的にすすめている。但し、学科によっては学科の特性上、キャリア教育の実施が僅かに留まっている。	・入学案内パンフレット ・就職ノートブック
3-9-4 授業評価を実施しているか	70%	学生を対象とした授業評価（CSアンケート）も定期的に行い、その結果を職員へフィードバック、そして上司との面談を通じて振り返り・改善を行っている。	今後は設立計画をしている教育課程編成委員会においても、その結果を共有し、教育課程編成の一判断材料として今後も改変を検討したい。	・CSアンケート ・学習カリキュラム

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育課程は、体系的にステップアップできるものになっている。定期的な見直しに当たっては、卒業生、関連企業等と協力した検討会によっている。 また、学生に対して定期的に授業アンケートを実施し、講義方法の改善をおこなっている。	理解しやすい項目から体系的にステップアップできる内容で構成され、ミニテストで理解度を学生が認識ようになっている。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	80%	ガイダンスなどで告知を行い、履修科目毎に統一的な試験を実施し、客観的な点数を基に評価を実施している。	シラバス等による公開を行っている。履修科目によっては難易度のバラツキがあるため、平準化を図る必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・大原学園ホームページ(シラバス) ・学生便覧
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	80%	全国または各エリア・各校にて実施している卒業研究においては、プレゼンテーションを実施して、成果評価を企業の人事担当や現場担当者に依頼をし、一定の評価を得ている。	卒業研究においては、プレゼンテーションを実施して、成果評価を企業の現場担当者等に依頼・評価を行う等の計画をしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・実施要項

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
成績評価は客観的な方法で常に明確に行っている。毎年卒業生の入社後状況調査を実施することで、教育カリキュラムの見直しに役立っている。また卒業研究については、研究内容設定から成果評価まで企業・官公庁に協力いただき、現在のビジネス現場に応じた実践的内容で実施することができている。	単位互換に関して、当校で実施した科目を他大学等で認定する制度が実施されている。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

3-11 資格・免許の取得の指導体制

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	80%	入学案内パンフレットおよび入学後の各種ガイダンスにて常に明示し、目標として意識づけを行っている。	学生のみならず、保護者に対しても説明しているが、より周知浸透させることで、3者が一体となった教育ができるよう改善したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・入学案内パンフレット ・ガイダンス資料
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	80%	全科目・全教科につきテキスト・問題集・テストを準備している。また、日々のチェックテスト・各種答案練習など資格取得に向け万全の体制を整えている。	実務家教員などを積極的に動員し、より実践的な教育の提供を強化していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・入学案内パンフレット ・各科目の使用教材

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
資格取得の体制については一定の水準は維持できている。 保護者への教育方針の理解を高めること、また実務家教員の動員を進めることで、より教育の質向上を図る。	特になし

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

3-12 教員・教員組織

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	60%	採用計画に基づき、最低限の教員は確保できている。しかし、年々、採用活動が困難になっている実感はある。	専門性を有する人材の採用が必要であるため、様々な採用ルートを探索していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 求人票、募集要項 ・ 基礎能力検査 ・ 指導十訓研修テキスト
3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか	70%	定期的に学生アンケートを実施しており、結果を上司より担当教員へフィードバックしている。 また、企業等と連携した教員研修を実施し、学科ごとに目指す試験の制度や業界ニーズにあわせた教育を実現する教員の資質向上に努めている。	今後も教員の資質向上のための、企業研修、外部研修参加をより充実させていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ CS アンケート ・ 教職員研修規程
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	80%	事業計画等でそれぞれの業務分担を明確にするとともに、教育に関する組織的な連携や情報共有も行われている。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業計画書等

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教員の確保については課題が残る状況となっている。引き続き、採用活動の強化を図りたい。	特になし

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

基準 4 学修成果

大項目総括

本校の教育成果については、大きな柱である「就職」「資格取得」とともに当初の目標を十分に達成できており、かつ向上を図るためのデータ収集と継続的な検討を重ねている。

就職に関しては、内定獲得ではなく、「入社後、即戦力として活躍する」事を目標として、入学当初より動機付け及び指導を行っており、その集大成として入社準備（PCP）期の開発を行ってきた。

今後も企業・官公庁側のニーズに基づき内容等の充実を図るとともに、競合他校との差別化として、単なる就職実績（数値）だけではなく、教育内容を保護者、高校（教員）、企業担当者へよりアピールしていきたい。

また、各種検定試験・資格取得に関しては、近年の政治・経済情勢のめまぐるしい変化に応じて、試験傾向や試験範囲だけでなく、試験制度そのものの変更が行われるケースも増えている。このような状況の中で、継続的・安定的な合格実績を達成していくために、変化に対応した高品質な教材をタイムリーに開発するとともに、学生を合格に導くための知識・指導力を身につけた担当者の育成に力を入れていきたい。

4-13 就職率

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	未実施	本校第一期生が現在就職活動中であり、今後実績が決まって来る。なお学園本部が中心となり就職サポートシステムで就職活動状況の一元管理を行い、各校の達成状況をリアルタイムに確認している。	未就職者率の更なる改善と現状の正社員雇用率維持。情報入力業務効率とセキュリティ精度を更に高めたシステムの構築を行う。在学中に限り学生へoffice365のアカウントを付与し、タイムリーな連絡・教育が行える環境を整備している。	・入学案内パンフレット

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職希望学生への就職指導においては、担任及び担任以外の教員が個別面談を薦め、学生個人の適正及び能力と属性を十分に考慮した指導を実践している。またそれらの達成状況（就職率）は学園本部で管理されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・フリーター、非正規雇用の進路決定者を出さない。 ・内定ではなく、入社後为目标とした実践教育を実施する。 ・学生の適性と能力に合った企業選びを実践する。 ・担任が各学生の進路相談から受験指導、進路決定まで担当する。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

4-14 資格・免許の取得率

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	70%	資格取得者を多く輩出するために学習カリキュラムや指導方法を研究している。	一部の資格試験につき、難易度が高まっており、カリキュラムや指導方法のブラッシュアップを図りたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学案内パンフレット ・ 結果集計表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
求められる技術、人材を常に把握できるよう、業界関係者とのネットワークを日々広げている。多くの人材を業界に輩出するためにカリキュラムや指導方法の研究も行っている。今後も引き続き、就職活動に有利になる技術を研究する必要がある。	特になし

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	60%	学園としては企業等を対象にしたアンケートの実施および教育課程編成委員会等で全国的な状況はある程度把握できている。ただし、開校初年度というともあり、地元については今後更なる把握が必要である。	今後、卒業生の入社後の状況は内定先の企業より情報を収集して状況を確認できるような体制を構築していく。	・なし

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
企業情報収集体制が確立できれば、教育カリキュラムや教育課程編成に役立てていきたい。	特になし

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

基準5 学生支援

大項目総括

学生の教育の充実を図ると共に、さまざまな面でのサポートの充実も学園生活では大切なことであるが、これらも含めて概ね学生の満足が得られている。

就職支援、学生相談、経済的支援、健康管理、課外活動等、学生支援の体制が整っている。

カウンセラーや健康相談など、専門的な人材が必要とされるような傾向が社会的にあるが、現状担任との結びつきを強め、個別相談や就職相談などを行っている関係上、専門的な人材が現在の教育体制の中で必ず必要か否かは、明確ではない。将来的には、社会的な動きやニーズから検討していく必要はある。

保護者との連携は、学校・家庭との連携をベースに学生指導を行っているため、既に体制として構築されている。今後は更にその連携を強化していくことで、安心を与えていかなければいけない。

卒業生への支援については、現在卒業生はいないが今後は卒業生のニーズと帰属意識および学校としての有用性を鑑みて、検討していくものである。

求人斡旋では中途求人などの斡旋が可能であるが、制度としては整っているものでない。今後、離職率の確認等を下し、卒業生のための就職活動支援を考える必要がある。

5-16 就職等進路

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	80%	就職教育として、入学から卒業までのカリキュラムが整備されており、担任制度の下、具体的な活動指導、学内での就職説明会開催など、就職支援体制は整備されている。また、毎年実施内容の見直しを行っている。	内定率 100%と学生のキャリアプランに沿った就職の実現を目指し、効果的な指導を実現するための情報収集を継続して実施している。	<ul style="list-style-type: none"> ・内定率（民間・医療機関） ・授業カリキュラム ・配付教材

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職は教育の大きな目的であり、そのための支援体制は整備されている。就職内定獲得に必要な指導内容は2年間カリキュラムの一環として組み込まれ、早期の内定獲得を実現している。	特になし

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

5-17 中途退学への対応

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	60%	事業計画における最重要課題の1つとして退学率の低減に向けた取り組みが図られている。 近年、経済的理由、精神疾患等で退学を余儀なくされる学生が増加している。 退学可能性がある学生の早期発見のために、教員の学生指導力（コミュニケーション能力）の向上、事例に基づく指導方法の確認、担当者間の情報共有を実施している。	家庭と連携した指導を実現できるように、退学の兆候が発見された段階で、保護者との連絡を取れるようにする。 近年の傾向として退学の兆候を見せず、突然音信不通になる学生がいる。このようなケースは最終的に退学となるケースが殆どであるが、教員の負担にも繋がっている。	・退学率一覧表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
退学率の低減は入学者の確保と同様、事業計画における最重要課題の1つとして取り組んでいる。学生が退学を希望するきっかけとなる時期・理由は多様化しており、今後は学生指導勉強会の実施等、担当者の更なる能力向上に向けた取り組みが必要である。家庭との連携も欠かせない。	特になし

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

5-18 学生相談

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	70%	定期的に担任が個人面談を実施し、学習目標の確認や学習に関する悩み等につき対応を行っている。上司・部署全体での情報共有を行うことで、担任だけでなく同部署の教員複数名で対応する体制をとっている。 しかし、学生の価値観も多様化しており、担任の負担が大きくなっていることも事実である。	教員の学生相談スキルを上げるとともに、学生相談室等の設置も検討する。	・面接記録
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	70%	開校初年度の当校において、留学生の入学実績がないため、未実施である。	昨今の社会情勢から、今後は必要になる可能性もある。そのためにも、留学生の生活相談対応可能な教員の増員・育成が必要である。	なし

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生相談については、学生のシグナルを担任が見逃さずにキャッチし、その都度対応している。また、節目ごとに全員と個別面談を行い、今後の進路、目標確認、悩みなどを聞きだし対応している。その結果を面接記録にまとめ、上司に報告も行うなどの細やかな指導を実践している。	

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

5-19 学生生活

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	70%	試験・資格・スポーツの成績など本人の努力に報いる制度が確立されている。 また、保護者・学生からの申請に基づき、修学支援制度の活用や学費の分割納入、延納などに応じている。	時代にあった対応を心がけていく。	・募集要項
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	90%	年1回、学校指定の医療機関等に依頼し、法に定められた健康診断を実施している。	特になし	・健康診断のお知らせ
5-19-3 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	90%	企業と提携し、学生マンションを紹介しており一定の学生ニーズを満たしている。	特になし	・寮学生マンション紹介チラシ
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	60%	開校初年度並びにコロナ禍からクラブ活動の体制は未整備。ボランティアに関しては近隣地域の清掃や、学校所在地自治体等のボランティア活動を紹介しており、希望者が参加している。	クラブ活動はもとより、コロナ禍で実施ができなかった行事を含めた課外授業の整備を行っていく。	・入学案内パンフレット ・各種ボランティア案内

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
より多くの学生が就学できるように、経済面、環境面などについて支援体制を整備している。 今後もニーズに合わせ、必要な支援体制を整備していく。	特になし

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

5-20 保護者との連携

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	80%	欠席の多い学生、授業態度等厳しい学生など、問題を抱えている学生に対しては、日々の打合わせ等を通じ、担任および管理者が状況を把握し、適宜保護者への報連相を行っている。 また、定期的に保護者相談会を開催し、学生の状況につき対面で話をする機会を設けている。	大きな課題はないが、協力的でない保護者との連携方法が課題となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者宛出欠成績通知 ・その他保護者向け通知文 ・面接記録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
保護者への連絡については定期的に行っている。特に、規定の家庭宛注意文書の発送と同時期に確実に保護者への連絡を義務付けている。必要に応じて保護者に来校していただき、面談も行っている。しかし、業務時間内に連絡を取る事が難しく、また理解を得られない保護者も年々増えているのが現状であり、担任の負担が増している。	特になし

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

5-21 卒業生・社会人

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	70%	各業界に確かなコネクションを有している。卒業生に対する様々なサービスを提供している。	卒業生サイトを利用し、各種証明書の申込み、卒業後の就職相談等を行えるように、利便性の向上、機能の拡充を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・大原学園ホームページ ・卒業生サイト
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	60%	今後の卒業生への学び直しなどのニーズに対して、様々な附帯教育を設け、卒業生および社会人の学びに対する再教育プログラムの開発実施に取り組む予定である。	社会ニーズについて関連企業等から情報収集し、より効果の高いプログラムを開発する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学則
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	80%	附帯教育を充実させることで、社会人の様々なニーズにも対応している。給付金、長期委託訓練の指定などを受け、希望する社会人が学ぶ環境を整備している。	社会人の学びのニーズは常に変化するため、今後も情報収集に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・学則 ・各講座パンフレット

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生への支援体制としては今後構築していく予定である。そのためにも、現在は満足度の向上を図るために卒業生サイトを運用し支援体制を整えている最中である。また、大学生や社会人などのニーズに応える制度の開発をさらに進めていく。	特になし

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

基準 6 教育環境

大項目総括

1年から2年の間、学習を進めていく中で、時代にあった教育課程を実践することが、学生または保護者の方々を満足させることになる。

そのためには、その教育課程を遂行するための教育設備ならびに学習環境を整えなければならないのは当然である。

しかし、整備をするためには資金が必要であるが、その調達が難しいのが現実である。
国や地方公共団体が、専修学校に対し大学や高等学校と同様の支援をしてくれることを希望する。

また、教育環境が整えられたとしても環境維持をしていかなければならない。それを担う人的な教育も疎かにしてはならないと考えている。

6-22 施設・設備等

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	70%	校舎のメンテナンスを適宜行っている。メンテナンス業者等との連絡先が明確になっており、メンテナンス体制が整っている。 また、時代に合致した実習設備の入替え等を心がけている。	計画的な校舎改修計画、教育設備入替えならびに予算を確保する。	なし

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
施設・設備に関しては、ほぼ十分な対応ができていると思われる。今後もこの体制を崩さないように教職員の意識を高めながら維持していきたい。	特になし

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	60%	実習や研修等を行う場合は、事前に外部機関と実習内容や研修内容の打合せを行い、期間中は職員が訪問または引率し、事故やトラブルにならないような制度を確立している。	開校初年度並びにコロナ禍の状況から学外実習がほとんど行えていない状況である。今後はこの実施を行う事から始めていく。	・実習および研修資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>実習等や研修の参加にあたっては、事前にガイダンスや説明会等を設け参加する目的等をしっかりと伝えている。また、実習・インターンシップ参加前はトラブルにならないよう校内において受入先を想定し、実習前トレーニングを行うとともに目的確認を行っている。</p> <p>研修については説明会を多く設定し事故やトラブルを防ぐように努めている。</p>	特になし

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

6-24 防災・安全管理

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	70%	マニュアルを準備し、職員は災害発生時のルール確認を行い災害に備えている。加えて定期的に教職員対象の防災訓練を実施し、防災に対する意識向上に努めている。	また、学生を交えた避難訓練（模擬）の実施も検討したい。	・防災マニュアル
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	70%	一般的な火災保険や設備保険は勿論のこと、行事および実習時の保険加入・緊急連絡体制などが整えられている。	地震保険など更なる災害に対しての保険加入を検討する。 学校校舎・設備・周辺状況に応じ、学校安全対策マニュアルの策定を検討する。	・加入契約書 ・連絡体制書類

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
保険等の加入については十分なものになっているが、それ以前の物的及び人的な備えに関して、これから対応を施していかなければならない。	特になし

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

基準 7 学生の募集と受入れ

大項目総括

18歳人口減少の中、教育成果を学生募集活動に繋げられるよう工夫を凝らし、維持発展を続けている。
その中で、世の中に出てから役に立つ、教育カリキュラムと施設・設備を整え、学生のみならず保護者の方々、高校教員の方々が満足する教育が準備できている。
これらのことをしっかり伝えられるように、学生および保護者対応を準備し、正しい進路選択ができるように学生募集を行う。

7-25 学生募集活動

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	90%	学生および保護者が入学判断に必要な情報を入手出来る様、正確な情報をホームページや学校案内で公開し、進学相談会やオープンキャンパス等でさらに詳細な説明を行っている。 加えて定期的に高校訪問を行い、対面での情報提供に努めている。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・入学案内パンフレット ・募集要項 ・大原学園ホームページ
7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	80%	入学判断に必要な学校案内を目的別に制作している。また、応募に際して詳細内容が書かれている募集要項や学校独自のホームページがある。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・入学案内パンフレット ・募集要項 ・大原学園ホームページ
7-25-3 留学生の受入れについて戦略をもって行っているか	未実施	留学生を受け入れる体制は今後整備していく予定である。	今後、学園の教育指針・制度・体制を取り入れ、受け入れ体制を構築していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・募集要項（留学生用） ・大原学園ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
将来を意識した学生および保護者に対して、的確な情報を伝え、進路選択について過ちを起こさないようにさせたいと考える。また、高校側に対しても志願者について現状の認識と将来への展望を伝え、進路選択に役立ててもらいたいと考える。 留学生については、今後の課題である。	特になし

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

7-26 入学選考

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	80%	年度ごとに基準確認を行い、統一を図っている。	特になし	・募集要項
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	60%	入学選考時の学生情報を一元管理しているが、授業運営方法の改善にまでは十分に活かされていない。	既往症や高校時の出席日数は入学後の学生指導に重要となるため、特に担任レベルまでフィードバックが必要である。	・学生情報データ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生一人ひとりに対して、書類選考を行っている。また、必要に応じて面接等を実施し、入学後進路変更がないように事前確認を十分行っているこの体制を維持していく。 また、入学選考時に把握した情報は担任レベルまで落とし込んでいく体制作りを行う必要がある。	特になし

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

7-27 学納金

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	算定している	教育経費を積算して学費の算定しており、毎年金額を検証して適宜学費改定も行っている。また、同分野の専門学校の状況も踏まえ、妥当な金額になっている。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内 ・募集要項
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	行っている	平成 18 年度文部科学省告示の趣旨に沿って適正に処理されている。また、3 月 31 日までの入学辞退希望者に対しては、入学金を除いた授業料等の金額を返金する旨を募集要項へ記載している。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・募集要項 ・学費返還規定

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育費に関しては、多くの家庭で優先順位が高い項目になっている。したがって、学費に関しては教育材料費等と常に確認をしながら負担にならない金額を設定するように心がけていく。また、学費納入に対しても滞ることがないように状況を確認していく。	特になし

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの 11 段階評価

基準 8 財務

大項目総括

予算計画は理事会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっている。
また、予算の執行は運営会議により定期的に状況の確認が行われている。
このように、予算の計画と執行は適切に行われているが、予算執行に関する規程はなく、今後の課題である。

私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査および会計監査を受け、学園運営が法令または寄附行為への遵守性が確保されるように努めている。
また、私立学校振興助成法第14条3項による公認会計士による会計監査も受け、財務の適正性を確保している。
さらに、平成21年度からは財務部門から独立した立場である内部監査準備室を設け、監事監査および外部監査と連携を取り、学園の財務の適正性を日常レベルから確保するようにしている。

現在、学園の財務情報は大原学園ホームページでの閲覧が可能となっており、且つ学校ごとの財務情報は閲覧請求に応じて、提供可能な状態である。

8-28 財務基盤

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	安定している	学生募集は良好な状態で推移しており、コスト抑制の効果も相まって安定的な学校経営ができています。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・事業活動収支計算書等の財務資料 ・理事会資料
8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	行っている	財務部および内部監査室で主要な財務数値は月次・年次の把握分析がなされ、理事会で確認されている。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・事業活動収支計算書等の財務資料 ・理事会資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生募集については、学科、コースにより変動はあるが、学校全体としては好調であり、財務基盤は安定している。具体的には、キャッシュフロー、消費収支差額比率などの数値も良好な値を示している。	全国に多数の学校を設置している学校法人であるが、法人全体でも財務基盤は安定している。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

8-29 予算・収支計画

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	策定している	予算は本部・学校ごとの教育目標・業務計画に基づき作成され、財務部で整合性等のチェック後に理事会での承認が行われている。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算計画書 ・ 理事会決議録
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	行っている	執行は本部・学校ごとの運営会議で決着者の承認の下で適正に行われている。	年度ごとに予算を立てて執行しているが、予算および執行に関する規程はないので今後準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算計画書 ・ 運営会議議事録

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
当年度の重点計画、前年度実績予想との整合性を保ち、健全な予算編成をしている。また、執行については定期的に運営会議などで執行状況を確認している。	予算編成に当たっては、教育効果・学生満足度の向上に主眼を置き、教育現場の意見を大きく反映している。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

8-30 監査

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	実施している	教育機関の公益性を重視し、監事による監査とともに、内部および外部の会計監査人による監査を適切に実施している。その際の責任体制は監査契約書に明記してある。また、実施スケジュールは外部会計監査人とともに過去の監査実績を踏まえて作成している。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査契約書 ・ 監査報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校法人監事による業務監査とともに内部および外部の会計監査を受け、法令または寄附行為への遵守と学園の財務の適正性を、確保するようにしている。	特になし

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

8-31 財務情報の公開

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	70%	学園の情報公開規定に基づき、財務諸表のうち、事業活動収支計算書・貸借対照表等に関しては各校への申請書提出で閲覧可能であり、学園のホームページにも掲載している。	今後は、情報公開の趣旨を踏まえ、さらに多くの情報を公開できる仕組みを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・財務情報閲覧申請書 ・大原学園ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学園全体の財務情報は、大原学園ホームページで公開されているが、刊行物あるいは学内掲示での公開に関する規程がないため、規程の準備を今後進めていく。	学校ごとの財務情報は要求に応じて、提供可能な状態である。

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

基準 9 法令等の遵守

大項目総括

学校教育法、専修学校設置基準などの関連法令に基づき、学校法人の寄附行為に則り、適切な運営がされており、諸規則集や学則等の文書化を通じて教職員への周知が計られている。

個人情報の保護については、平成16年から開始した情報セキュリティ活動の一環として、全面施行の平成18年4月からはプライバシーポリシーを掲げて個人情報保護法の遵守をしている。また、情報セキュリティ委員会が中心となり、運用監査と新たな安全管理措置の追加が行われている。

自己点検・評価は今後も継続して実施していく方針である。また、問題点の改善は点検・評価の結果を踏まえ、重点項目を挙げて取り組んでいる。さらに規程類も実施状況や法令などを考慮して実効性の高いものとしていく。

自己点検・評価報告書は、設申請による印刷物の閲覧と大原学園ホームページでの閲覧があるが、その閲覧範囲に制限はない。

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	90%	学園本部がリーダーシップをとり、規程や届出書の変更を適切に行っている。また、入社時に法令遵守の研修を行っている。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・ 諸規則集 ・ 学則 ・ 各種届出書 ・ 研修資料

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学園本部が中心となり、法令に対して速やかに対応できる体制をとっており、順守に必要なものも文書化している。今後は教職員および学生に対して、定期的・継続的に実施できるよう検討を進める。	特になし

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

9-33 個人情報保護

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	80%	個人情報保護のため情報セキュリティの一環として規程が存在し、個人情報保護法の安全管理措置を中心に保護対策を実施している。また、入社時に教職員に対して規程の遵守を徹底している。 さらには、簡易的に現況を把握できる「情報セキュリティマネジメントセルフ点検シート」を導入し、安全管理体制の改善の基礎としている。	安全管理措置をさらに強化する。 また、各部署や教職員に対して継続的かつ定期的に現況・意識調査を行い、希薄化しないようにする。	・情報セキュリティポリシー

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報保護については情報セキュリティ委員会の下に、各部門・各校に管理者を配して、保護活動を徹底している。また、全国会議で説明会を催すなど、周知徹底を図るとともに対策の実効性を高めている。	全ての学校で情報セキュリティの一環として個人情報保護に努めている。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

9-34 学校評価

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	行っている	開校初年度のため、自己点検・評価は初めての実施となる。改善内容は重点項目を挙げ、校長の管轄下で行われる体制を構築している。	改善の実施を確認し、報告書として提出する。	・自己点検・評価報告書
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	未実施	令和2年度の自己点検・評価報告書は教職員、その他関係者の申請により閲覧が可能でその範囲は全項目となっている。また、大原学園ホームページにも掲載している。	特になし	・自己点検・評価報告書 ・大原学園ホームページ
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	未実施	令和3年度より学校関係者評価委員会を開催予定である。	継続実施することでより良い学校運営に取り組んでいく。	・自己点検・評価報告書 ・学校関係者評価報告書
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	未実施	令和3年度より学校関係者評価報告書は大原学園ホームページに掲載予定である。	特になし	・自己点検・評価報告書 ・学校関係者評価報告書 ・大原学園ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
令和2年に開校した学校のため、令和3年度より対応できるように、自己点検・評価報告書は申請があれば全項目を閲覧できる体制を構築し、HPにも掲載予定である。外部者による学校関係者評価に関しても、実施後は報告書が大原学園ホームページに掲載していく。そして、今後も継続的に評価を行い、課題を明確にして学校運営に活かしていく必要がある。	特になし

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

9-35 教育情報の公開

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	70%	学校の概要や教育内容は大原学園ホームページ等に掲載し、より見易くするため段階を追って整備計画（リニューアル）しているが、未だ教職員に関する情報はその対象となっていない。	情報公開の内容と方法については今後も継続して改善を進めていく。	・大原学園ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校の概要や教育内容は大原学園ホームページ等に掲載しているが、教職員に関する情報はその対象となっていないので、情報公開の内容と方法について今後改善を進めていく。	設置する学校数が非常に多いため、学校ごとに分かりやすい公開方法が必要となる。

【達成度合の評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

基準 10 社会貢献・地域貢献

大項目総括

大原の教育は社会的に一定の評価を頂いている。その中には幅広い年齢層に対し、様々な教育サービスを提供している附帯教育事業や留学生のための学校も含まれている。

これらの教育における社会貢献について、さらに充実を図るとともに、今後は地域への貢献や世界規模での貢献も積極的に視野に入れ、広い意味での人格教育として展開を進めていきたい。

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	80%	生涯学習事業や附帯教育事業を通じて、幅広い年齢層に対して教育サービスの提供を行っている。通信講座も幅広く展開している。 また、一部の学生がボランティア活動に参加している。	社会貢献・地域貢献の一環として、次年度もボランティア活動を啓蒙していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・講座パンフレット ・ボランティア案内
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	未実施	留学生の受入れ体制については今後構築予定です。しかし学園グループの中に留学生のための学校「大原日本語学院」を設置している。	特になし	<ul style="list-style-type: none"> ・入学案内パンフレット ・大原学園ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
附帯教育事業は積極的に行っており、今後も幅広い年齢層で様々な分野の教育サービスを提供していく。また、地域への貢献は施設の提供だけでなく学校の特色を活かしたのも提供したいと考えている。	特になし

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

10-37 ボランティア活動

小項目	自己評価 (達成度)	現状認識	課題／改善方策	参考資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	60%	ボランティアに関しては近隣地域の清掃や、学校所在地自治体等のボランティア活動を紹介しており、希望者が参加している。	ボランティア活動について、「岡山マラソン」や「うらじゃ」などの地域行事について積極的にボランティア活動の啓蒙を図っていきたい（今年度はコロナ禍の為、中止となった）。	・ボランティア案内

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
ボランティア活動は近隣清掃を中心に計画をしていたが、コロナ禍のため活動が活発に行うことが出来なかった。	特になし

【達成度合の評価】 0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価